

平成24年度岐阜市地域福祉計画推進委員会議事概要

【日 時】 平成25年2月19日（火）10:00～12:00

【会 場】 岐阜市消防本部 6階 大会議室

【出席者】 飯尾 良英 伊藤 房吉 大西 由香 大橋 理恵子 小川 サチ子
河村 康郎 鷺見 譲 野々村 文彦 藤澤 美幸 吉村 希至
(敬称略。出席10名、欠席4名。)

【議 事】 1. 第2期岐阜市地域福祉計画の進捗状況について

(1) 「重点施策事業」の実施状況

(2) 事例発表

2. 地域福祉計画策定基礎調査について

【報 告】 第3期岐阜市地域福祉計画の在り方について

委員長あいさつ

今も、部長さんからお話ございましたが、我々が作りました計画も最後の年になったということで、皆さん方から総括していただき、次にバトンタッチしていきたいと思っております。

地域の様子については、孤独死、地域の中の孤立無縁の状態、お年寄りに限らず、若い人たちも含めて、あるいは母子等の単身世帯、障がい者世帯などの様々な世帯、とりわけ弱い世帯、あるいは経済的に弱い世帯の孤立無援状態が深刻になっているように思う。そういった点で、地域の中で住民の皆さん方の役割の大きさ、力は大きいですが、もっと大きなネットワーク、様々な立場からそういった方を見守っていくそんな必要が出てきている。そういった点では従来の福祉の枠に限らず、事業者の皆さん、あるいは地域の様々な役職の方々、行政、警察、そういった多くのネットワークの中で支えていくことが重要である。まちづくり、住宅政策、道路政策など様々な分野と協働しながら、この無縁社会を縁のある社会にしていくことが必要であろうと思う。

1. 第2期岐阜市地域福祉計画の進捗状況について

(1) 「重点施策事業」の実施状況について事務局から説明

(2) 『茜部ディアス福祉コミュニティ構築推進実行委員』から事例発表

【委員長】

事例で発表していただいたディアスの活動に対しては、私も補助金を決定する審査会に出席させていただいた。従来、社協支部に対する助成ばかりだったが、新しくできた団体に助成するということで、色々な意見があった。新しい力と地元で頑張っている支部社協を一緒にすることで大きな力が生まれるのではないかという新しい試みとして補助した。

発表を聴かせていただき、我々の期待どおり、期待以上によくやっただいており、感心した。新しい住民組織と支部社協が合体をしたモデルになる。今後ともいっそう励んでいただきたい。

事務局から発表のあった 4 つ重点施策の進捗状況、あるいは地域福祉活動を支援していくさらなる発展のための提案など、ご意見をいただきたい。

【委員】

参加する人の交わり方、人材が素晴らしいと思う。その中で、ディアスさんの事例を踏まえて、今後どんな掘り起しをしたらこういう団体ができるのか、今後の目の付け所について教えて頂きたい。

【委員長】

おそらく、昔からの保守的な地域の運営に対して、外からご覧になって意見もあったと思う。

実際、一緒にやってみて良かったこと、課題があったことなどもあると思うので感想をお話いただきたい。

【ディアス】

私自身は、茜部地域に住んで 20 年になるのに、地域のことをまったく知らなかったことを知った。「あんたはどこの嫁さんやな」から始まって、本当に苦労した。

今、30 代後半から 50 代の間で、コミュニティカフェというのがブームになっている。私は、看護師の資格があるので健康をテーマにしたコミュニティカフェだが、北部の方でも若者支援のコミュニティカフェなどいろいろできつつある。私たちの世代が、自分の親世代を介護していかなければならないし、若い人には頑張ってもらいたいという気持ちでやっている活動である。コミュニティカフェに限らず校区で民間の見守りや支える力が出てくれば良いと思う。ツイッター、フェイスブック、ホームページ等で、いろいろな情報交換がなされている。私も発信をしている。それを高齢者の方にも知っていただくために紙に落として新聞を配るという努力もしている。自分一人の活動は小さいので、同じようなことをやりたいという人に声を掛けて活動を広げていきたい。地域に限らず、市内、県内にこういう場所が広がっていくといいと思っている。

これまで、社協さんや民生委員・児童委員さんたちとコミュニケーションのとり方を知らなかった。今回、この補助を通して、それを教えていただけたことに感謝している。岐阜市の補助をいただいたということで、地域の方から少し、認めてもらえたこともある。

【社協茜部支部】

茜部には公民館がたくさんある。公民館はサロンをやったりするが、その時だけ開いている。ディアスさんは昼間はずっとやっている。相談にも乗ってもらえる。健康相談は小さな公民館には来てくれないので助かっている。

校区公民館は 9 割近く埋まっている。茜部地区の特徴として地域に 13 の(自治)公民館がある。そこで、サロンをやっているが、常駐して相談するということはない。

最初は金もうけで喫茶店をやるのかなという話もしていたが、社会福祉に骨折ってもらって、保健師もサロンに派遣していただいて馴染んでいる。非常に助かっている。

今後、岐阜市の特に北部でも、やっていただけるとよいのではないかと。話しを聞いていると公民館に行くのが大変だと言われる。しゃべるところがないと。ぜひ、広げて欲しいと思う。

【委員】

茜部の社協を代表しておいでになっておられると思うのですが、岐阜市の場合は自治会と背中合わせのような形で社協の支部長は連合会長が務めるということになっている。こういう地域の問題を連合自治会単位で進めるという事は、連合自治会では広範囲なことを関わっていることから難しい。茜部ではもしかして社協と分離して事業の推進に関しては、支部長以外に責任を持って進められている方がいるのか、お聞きしたい。

【社協茜部支部】

茜部では社会福祉協議会と自治会とは離れている。私も自治会長は今はやっていない。社協主事も自治会とは独立してやっている。顧問なども社協だけでやっている。これが茜部社協の特徴で、色々な活動が楽にできる。

自治会だと、自治会の会員でないとと言われることがある。会員だけなら面倒みると、自治会の会費を払っていないから遠慮してくれと。実際、運動会などのプログラムを配るのは自治会員だけである。社会福祉協議会から見ていると、自治会に入っていると、威張っているように感じる。ディアスを立ち上げる時にも、商売じゃないか、自治会にも入っていないのと言われてた。

社会福祉協議会としては、自治会に入っているかは別にして骨折っている。

【委員】

茜部の状況は理解したが、自治会の連合会長が支部長を務めることでいろいろなことができると思う。社協だけで色々な組織に働きかけるという事は、長い歴史の中で積み上げられてきたことがあってできるのかもしれないが、実際のところは、岐阜市の機構上は連合会長が支部長で、各自治会長、その他の福祉に関する委員が社協の運営委員ということになっている。そうすることで、校区で上手く運営している。私どもの地域では社協の長を別に決めて事業を進めることはなかなか難しいと感じている。自治会長に理解されない。岐阜市の中でも大半は社協は自治会と一体となって進めている。新しい気持ちを取り入れていかなければならないと強く感じた。

【委員長】

社協の常務さんが委員ですので、そのあたり説明してください。

【委員】

自治会連合会長と社協の支部長の関係ですが、岐阜市は10の地区で連合会長と支部長が分かれている。去年は6つか7つだったので、増えていく傾向がある。中身を見ていると、一体となって上手く支部長と連合会長が連携してやっているところと、中には、少し仲が悪かったりするところも実際はある。私どもとしては社協の会費をお願いするが、自治会の組織の力を借りないと社協の会費もなかなか集まらない。自治会と連携を取ってうまくやってもらう中で、福祉の専門的なところを社協がやっていかなければならない。例えば、福祉部会や環境部会などを作っているところがあるが、福祉の部門を社協が担当するというのが一番いいと思うのと、実際そういった形が増えてきたという印象がある。とにかく、地元ではまだまだ社協という存在が知られていないということがけっこうあるので、今のところ社協としては全地域でやっている「ふれあい・いきいきサロン」を中心にして、地元にもっと知ってもらって社協の活動を推進していきたい。

ディアスさんの話は、新しい地域づくりの試みということで、非常にいいと私も思う。他の地域で喫茶店を「ふれあい・いきいきサロン」に使うということも出てきておりまして、田舎にいくと自治公民館があるが、町の中では地区公民館が 1 つあるだけで、近くに公民館がないので、喫茶店を使っていきいきサロンを開催するところが増えてきている。いろんな場所で、近所ですることができるということがある。喫茶店とかコミュニティカフェとか、こういう民間の力をうまく活用できるといいかなと思う。

【委員】

あまり長くなってもいけません、今のお話をきいてちょっと矛盾を感じるのですが。社協の支部長会というのがあるが、その前に必ず連合長会があり、その延長線上で(支部長会が)やられている。連合会長が各地区の社協の支部長を務めていることは間違いない。

おっしゃったことは良いことだと思う。確かに自治会連合会だけではなかなか対応できないこともある。

もう 1 点、社協と本庁(市)と重複したような事務が出てくる。社協の事業と福祉の事業と全く同じことを別々に進められてきたことがある。いきいきサロンの話がでたが、10 年ほど前、サロンは 3 年間の継続の事業であり、3 年間で過ぎたから中止にするという話があった。当時、社協の主事をやっていたが・・・

【委員長】

すみません、時間の関係がありますので。

【委員】

社協の支部長会の関係ですが、連合長会の後にやるが、10 人は支部長と連合会長が違っているので、入れ替わってから会を行っている。

【委員長】

地域の中ではいろいろなことがあるということだと思う。

【委員】

感想になるが、生活・介護支援サポーターの養成講座を 21 年からやっているが、最初は養成講座修了後はどういう風に活動するのか?と聞いても、「まだ、実績調査をしていません。」という答えだったが、こうやって修了者が地域に帰って、ふれあい・いきいきサロンのサポーターをしたり、サロンの立ち上げに尽力されたり、地域に密着した活動をされているのを感じて、いい養成講座になってきたなと感じた。

今の、茜部地域のディアスさん。実は、去年、私も選考をさせていただいたが、その時大変危惧しているのは、地域での関わりがあまりない応募書類であったから心配していた。委員会で、地域の社会福祉協議会とか地域福祉に関わる人に関わっていただきたいと申し上げたが、本当にそういう風にやっていただけたので嬉しく思っている。どんどん地域に入ってってもらいたいと思う。

【委員長】

予定の時間は過ぎているが、重点施策の 4 つ柱について、ご意見があれば発言いただきたい。

事務局から進捗状況について発表があったが、概ね計画どおり、良好に推移していると思う。

よろしければ、先に進めさせていただく。ディアスさんありがとうございました。

2. 地域福祉計画策定基礎調査について

(1) 地域福祉計画策定基礎調査について事務局から説明

【委員長】

ありがとうございました。それでは、事務局から説明があった基礎調査の結果について、委員の皆様からご意見をいただきたい。特に、次の計画策定に繋げるポイントについてご意見いただければと思う。

被験者の属性はどうなっているか。

【事務局】

アンケートを送付したのは、20歳以上で性別と10歳刻みの年齢で多段階の無作為抽出を行った2,000人になる。属性の結果は、資料4-2の問1~6の回答になる。

【委員長】

ということは、年齢で見ると60歳以上が半分ということになる。比較的、年齢が高い方が多いと言えるか。

【事務局】

高齢化率が25%くらいなので、回答してくれた方の属性というのは高齢者の方にぶれている。

【委員長】

回収率がとても高いと言える。調査の内容からしても、地域を大切にされている、あるいは地域を頼りにされている方が回答していると感じた。

調査結果について、感想や注目するポイントについてご発言いただきたい。

【委員】

岐阜市は50地区あるが、地区ごとの傾向は分かるか。簡単でいいので報告いただきたい。

【事務局】

50地区だとあまり回答数が多くないため、総合計画の13の地域別でクロス集計をして、確認していきたいと思っている。これまで言われている様な絆が強そうな地域と、必ずしもそうではないと思われる地域の傾向というのはまだしっかり分析できていないが出てくるだろうと思われる。

【委員長】

地区別に見るとか、年齢別に見るとか、これからの分析の仕方などについてもご指摘いただきたい。

【委員】

資料4の5ページ、問19「病気や介護、子育てなどで困っている家庭があったときに、あなたは手助けしますか。」で“頼まれれば手助けする”という方が78%もいる。また、同じく7ページで社協が推進している支え合いマップづくりを“知らなかった”という方が80%もある。その下（「マップづくりに参加したいと思

ますか。』で“どちらともいえない”が 65%もある。私共としては、この“どちらともいえない”という人は(マップづくりに)出てくる可能性がある人という風に捉えている。やり方次第でもっともっと活動に参加してもらえる人がいるかなという印象を受けた。社協が今、一番力を入れてやろうとしているマップづくりをますます市民に知ってもらってやっていかないといけないと感じた。

【委員長】

これは、面白い結果だと思う。“頼まれれば手助けする”という人は大変多い。一方で、「地域の人に手助けを求めることができますか。」で“できる”は 24.7%。頼むとなると消極的になるようだ。このあたりに課題があるように感じる。他に何かご意見はないか。

【委員】

子育て世帯の“あいさつ、声かけ”に注目している。私の子どもは今小学生だが、学校であいさつ運動として地域の皆さんにあいさつするように学校の先生からも言われているようだ。地域の大人が小学生に声をかけるということと、見守りも大事だと感じている。

【委員長】

子どもさんが実践されているということで、地域の思いやりというのは、温かい近所づきあい、普通と言えば普通だが、特別な活動というよりむしろ、昔の向う三件両隣ではないが、持ちつ持たれつ助け合うということだと感じた。

【委員】

子育て支援のことで、感想になるが、子育て中の親が孤立しているなど問題があるように言われている。実際に子育て中の親が集まれる場所を伺ったが、最近はかなり状態が変わってきている。ツイッターで仲間になった親子が集まって、「どこか食べるとこない」というように楽しく食事をしている。例えば、車で郊外の大型ショッピングセンターに行けば、子連れでも長時間楽しめるようになってきている。企業の方も「お子さんをしばらく預かります。」といった遊び場を作っている。もちろん有料というのが前提ではあるが。

昔は、公園というコミュニケーションの場があって、そこで地域のあいさつ、繋がり、助け合いが生まれてくることがあった。最近では、公園は怖くて行かれないところになっていて、親が連れて行く場所で、子ども同士の繋がりではなく親同士の交友関係の中で子どもが遊んでいる。保育所・幼稚園に入ると初めて子ども同士の友達関係が出来ているというのが現在のだいたいの様子になっている。

ここで、問題になってくるのが、出てこれない親、もっと問題なのは少子化対策ではあるが、これはここで論じることではないが、子どもが少なくなってきている。きちんと把握はしていないが、岐阜市でも子どもがすごく少ないという状態ではないはずである。また、今でも子どもたちの集まる場所はかなりある気がしている。なので、このアンケート結果をどういう風に反映していけばいいのか戸惑っている。回答してくれた人の半分が高齢者ということもあるので、若い世代が本当に必要としているまちづくり・子育ての姿がもう少し分かると良い。

【委員】

子育ての事が話題になっているが、私は学校の代表なので、その観点から意見を言わせていただく。

地域の人たちから子どもたちにいろいろ声をかけてくださり感謝している。また、家庭の子育て支援の施策についてもいろいろ手を差し伸べていただいて感謝している。今後も継続してほしい。

今、子どもたちのお母さん方の様子を見ていて、課題と感ずることは、問 19 の“頼まれれば手助けする”が 77.6%、頼まれれば手助けするということは頼まれなければ手助けしないということなので、“手助けしない”と合わせると 9 割以上は困った人がアクションしなければ何もしないということ。制度を知らない人には知らせればいいが、制度にかかろうとしない、制度にかかっても流用・他の用途に使う、さらに、いい意味で言うと世話にならない、あまりよくない意味で言うと反発してやらないという保護者がいる。結果的には子どもが不幸になるという状況がある。制度的にいろいろと仕組みを運用してセーフティーネットを張って、人も要請する・お金も出す・場も作るという中で、漏れていく人あるいは背を向けている人をどういう風にしていくかということが、課題となっている。なかなか行政側から入り込むことは大変だという事は承知しているながらも、何とか食い止める方法はないかと模索している。

【委員】

アンケートについて、年代別・性別すべて分析が可能である。例えば、つきあいに満足しているとか、年代構成としてどうなっているかを、検証されているとは思いますが、これをお願いしたい。そのデータをこういった場、あるいは可能であれば、各団体に年代別、性別のデータが流れるとよい。年代によって回答も違うと思われるので、例えば我々老人施設の団体であれば特に高齢者がどういったことに着目しているか、どう考えているかということのヒントにしやすい。ぜひ、こちらのデータをいただければありがたい。

また、地域性がたぶんあると思う。我々の法人は岐阜市の中でもどちらかというと農業地域にある。市役所のある都市部とは随分アンケートへの回答が違うと思う。岐阜市というのはそういう特性、都市部もある・農村部もある・高齢者が増えている地域もある、地域ごとに力をいれるためにもこういったアンケート等の参考になる情報を各学校関係者や福祉団体・施設等に提供いただきたい。情報をどこまで開示できるかという問題もあるが、アンケートについてはかなり広範囲に出せると思う。結果、我々が地元施設を構えているので、アンケートには頼まれれば云々というのがあったが、こちらからテーマ・課題を見出して、良い方は悪いが手を付けていく努力が出来る。

アンケート全般の感想を一言でいうと、これも岐阜市の地域性だと思うのは、頼まれればやる、その理由もあまり踏み込んでいいものか、という謙虚というか相手を尊重する気持ちがあると思う。決して無関心ではないと感じた。

【委員】

高齢者、障がい者の方の見守りについて、お願いしたい。

東海沖・東南海沖地震がいつ何時発生してもおかしくないと言われて十数年が経過し、現在、確率が高まっていると思う。その時に弱者である高齢者あるいは障がい者に対する救助を含めた、日頃の見守りも含めた体制づくりを社協からも市からも話をいただいているが、プライバシーの問題もありなかなか進められていない現状がある。組織づくりができたところがそんなにない。これを繰り返し、喫緊の問題として、取り組んでほしいと行政からも強く推進していただきたい。

【委員長】

時間がきているので、何かお気づきの点があれば、委員会後でも事務局にお伝えいただきたい。

これからの計画については、地域で考えていくことももちろん中心となるが、専門機関、専門職などの幅広い方々と一緒に考え対応していかないと、実際、地域で困っている事例もたくさんある。そういった事例に総力をあげて対応する必要がある。

それでは、先に進めさせていただく。

3 報告

第3期岐阜市地域福祉計画の在り方について事務局から報告

【委員長】

市の地域福祉計画と社協の活動計画を一体的に策定するということが、何かご意見、留意点があればご指摘いただきたい。

実際、他の市町村でも一緒に作っているところもあるし、別々に作っているところもある。一緒に作ることは良いと思う。それぞれの特徴・特色は失われない様にはしてほしい。

26年度の1年間はどうか考えれば良いか。

【事務局】

今の計画は25年度までの計画なので、26年度は市の計画がなくなることになる。第2期岐阜市地域福祉計画の主要な施策も社協と同調して26年度まで継続していく施策も多いことから、そういった実態も踏まえ、26年度は全く別の計画を作るのではなく、概ねこの計画の方針に沿った1年の事業展開を定めたものを作り、それを延長計画とする予定である。委員会でも次の年は一体的なものを作ることを念頭に話を進めることで、社協の課題、一体で作ることの課題についても話し合うことができると考えている。

【委員長】

この委員会は25年度までの総括をするということになるのか。

【事務局】

24年度までの進捗状況を見ていただくことになる。

【委員長】

ということは、計画自体は1年残っているから、最終的な総括は新しい委員会で行うということか。

【事務局】

そうなる。もし、この話がなかったとしても同じで、計画を作っていたメンバーで進捗を見ていただくことになるが、新しい計画を作る時には、新しいメンバーで計画を策定し進捗を見ていただく、その切り替えのタイミングは計画が切れる1年間の境にするという考え方で任期を決めている。

【委員長】

他に、何かご意見はないか。

それでは、時間通り進行することができた。以上を持って、本日の議事は全て終了することができました。ご協力いただきありがとうございました。